

Let's Try 自分発見 みんなで成長

－主体的に学び続ける姿を通して－

1 研究主題の設定について

(1) 背景

学習指導要領では、児童生徒に目指す資質・能力を育む「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、授業改善を進めていくことなどが明示されている。各学校においては、これらの考え方を踏まえて、生涯にわたって能動的に学び続ける児童を育成することが求められている。

ナゴヤ学びのコンパスで目指している「子ども中心の学び」を実現するためには、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進」がこれまで以上に求められている。子どもたちが自分のよさや可能性に気付くとともに、自分で課題を見付けて学習を進めたり、多様な立場の人と協働しながら新たな価値を生み出したりできる資質・能力を育む学校教育を行うことが求められている。

(2) 昨年度までの学校努力点の取組と本校児童の実態

本校では、平成29年度・30年度に「対話を通して学びを深めることのできる子どもの育成」、令和元年・2年度に「新しいことや苦手なことに挑戦しようとする子どもの育成」を研究主題として、学校努力点の取組を行ってきた。児童は、対話的な学びの中で新たな考えに気付いたり、協働的に縦割り活動に取り組む中で他者との関わりに自信をもったりすることができるようになった。また、令和3年・4年・5年度には、「主体的に学ぶ楠西っ子の育成」を研究主題にし、探究的・協働的な学習の中でPDCAサイクルを児童が回すことができるようになるための授業実践に取り組んできた。児童が主体的に学習に取り組めるような授業改善を行ってきたことで、児童は学習課題に対して自分がどう学習を進めていくべきなのかを試行錯誤しながら授業に取り組むことができるようになってきた。

その一方で、「自分はどんなことに興味があり、何が得意で、どんなことを学びたいのか」自己理解ができていないことから自分に自信がもてず、学習内容や学習方法を教師に頼ってしまう児童が多く、「子ども中心の学び」の実現においては、まだまだ改善の必要がある。

(3) 「子ども中心の学び」の実現のために

名古屋市が目指す「子ども中心の学び」の中で、重視したい学びの姿とは、知識及び技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた下記3つの姿である。

- ① 自分に合ったペースや方法で学ぶ
- ② 多様な人と学ぶ合う
- ③ 夢中で探究する

今年度は、各学年・各教科の学習や、縦割り学習（ワイワイスタディ）において、児童が主体的に学ぶ上記①～③の姿が見られるよう、教師主導の学習から児童主導の学習へと授業改善を図り、自己理解を進めることができるようにすることで、

【自分を発見し、楠西小の仲間みんなで成長していこうとする児童】

を育んでいく。